

### 三、旅程

#### ● 旅程の概略

「探險記」から読み取れる地名や語句から、一行が辿った大まかな旅程をまとめると次の通りであるが、一部に推定補筆した箇所もある。「略地図」には、要所のみを表示し詳細な集落名は割愛した。

月は七月、「」内は宿泊した家である。

二十二日：井波～栃原峠～栃原～下原

長崎～大牧 [大牧温泉]

二十三日：大牧～祖山～大崩嶋～下梨

細島～西赤尾 [行徳寺]

二十四日：西赤尾～境川橋(県境)～椿原

内ヶ戸～鳩ヶ谷 [四郎左工門]

二十五日：鳩ヶ谷～萩町～平瀬～御母衣

尾神～中野～岩瀬～新淵～一色 [三嶋定三郎]

[三嶋定三郎]

二十六日：一色～黒谷～三尾河～軽岡峠

六厩～松の木峠～巢野侯～有巢峠

(郡上街道)～三ツ谷～高山 [角竹信]

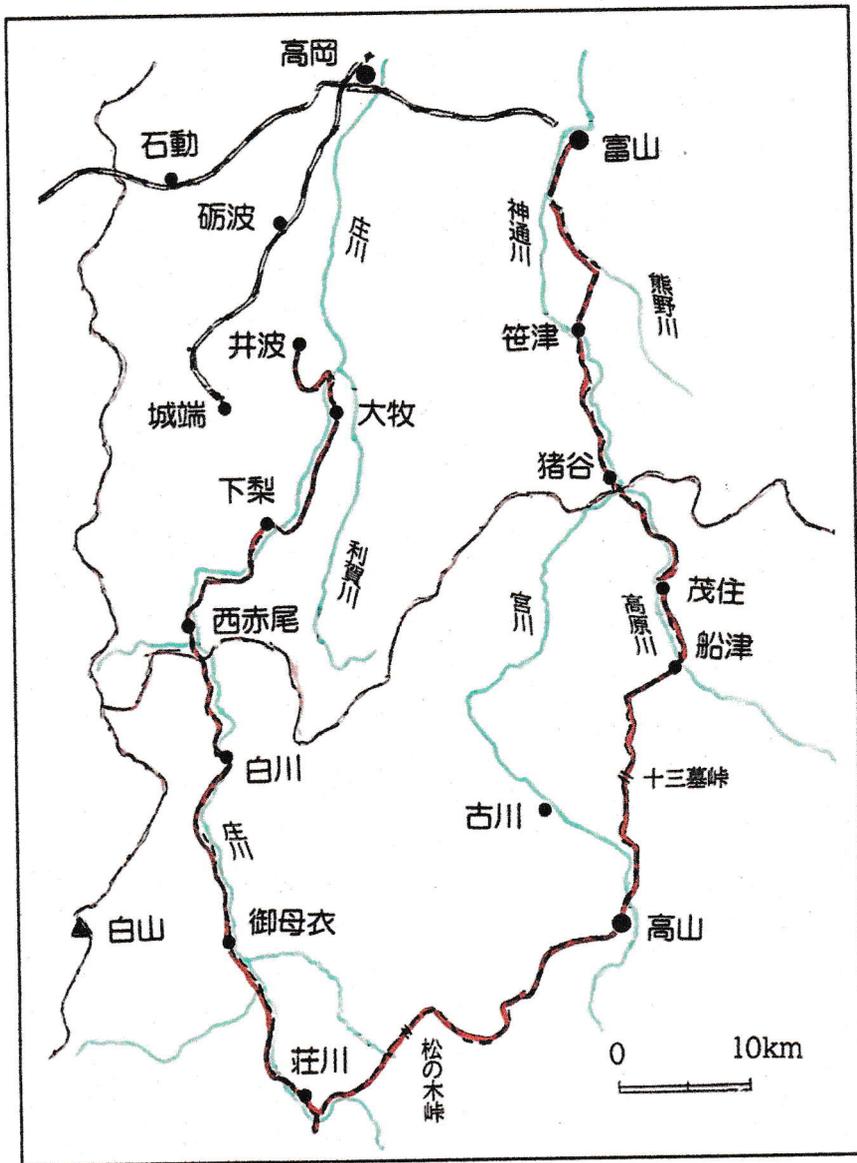
[角竹信]

二十七日：高山町名所見学。

[角竹信]

二十八日：高山～上広瀬～今村峠～西門前

二十九日：船津～茂住(県境)蟹寺～猪谷～細入～片掛～庵谷峠  
 ～笹津。 [古田虎太郎]  
 三十日：…笹津～大久保～熊野橋(熊野川)～高山 (野宮)  
 (解散)



五箇山・飛騨探險記略地図 (赤線…一行が辿ったルート)

地寄進を行って照蓮寺と誓書を交したのである。

照蓮寺は、元禄十六年(一七〇三)、本山の掛所(かけしょ)「高山御坊」となり、明治九年に名称を「高山別院光曜山照蓮寺」と公称している。同寺は八回もの火災と再建の歴史を持っている。明治八年の類焼後には木造檜皮葺、二〇間(三六坪)四面の本堂と、壮麗な彫刻を施した山門などが再建された。

ここを訪れた一行が「堂宇の宏壮にして精巧なる実(まこと)に目を眩(くら)する許りなり」と驚いたのはこの建物であった。しかしこれも昭和二十二年の火災により全て失われた。



— 嘉念坊善俊上人の碑と照蓮寺本堂 —

私が見上げた本堂は、昭和三十八年に再建された鉄骨の耐火建築で、井波瑞泉寺の本堂や太子堂に見るような装飾彫刻を期待していたのだが皆無。本堂内に入り内陣外陣境を飾る金箔の欄間彫刻を見て、「アレッ」と驚いた。天女六体のうち横笛を吹く一体は、笛の位置が左右逆であり、非常に珍しい左利き天女である。

管理室におられた僧侶に詠を

訪ねると「気がつかなかった」との事。そして意外にも、「これらの彫刻は飛驒の匠によるものではなく井波彫刻です。門信徒から寄贈された」と言う。さらに「明治三十四年に九名の中学生が、越中の井波を出発し歩いて高山に至り、このお寺にお参りしているのだが、当時の寺の写真があれば見せていただきたい」と言う、「写真は無いが、その頃の本堂は今のものよりひと回り大きかった」には驚いた。

● 雲龍寺の鐘楼門：④

養老四年(七二〇)、泰澄によって白山神社の別当妙観寺として創建され、曹洞宗寺院としては飛驒で最も古い。金森長近の長男長則(本能寺の変の折、二条城で討死)の菩提寺である。

鐘楼門は金森氏が高山城を去り、後に破却が決まると、城にあった黄雲閣を譲り受けたものである。

● 大雄寺の山門：⑤

大雄寺(だいおうじ)(浄土宗)は、鎌倉時代に、現在の高山市国府町



— 横笛を吹く天女は左利き —